

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	中央大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	チュウオウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	海外インターンシップ
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	経済学部事務長 村上 毅
基本情報	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	38
	受入企業等数	13
	受入企業等名	ロサンゼルス地区の日系・現地企業(ロサンゼルス白門会)、Sports J(サンフランシスコ日系企業)、Holst Group(イギリス現地企業)、シドニー地区の日系・現地企業(オーストラリア)、フィリピン観光省(DOT)、フェアモントホテル(フィリピン)、ベルジャヤグループ傘下各ホテル(マレーシア)、タイ国政府観光庁(TAT)、JTBタイランド(バンコク)、バンコク市内ホテル、CP-ALL(バンコク現地企業)、ホーチミン地区の現地企業、日系企業(ベトナム)、シンポー情報システム(中国日系企業)
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 4.国際機関でのインターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
要素①	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入先が異なる5コースを開講し、各コースの授業内容に合わせて学生を派遣する。受入先のなかには、白門会海外支部との連携によるものもあり、中央大学オンリーワンのグローバル教育実現に向けて、年々受入先を増やしている。就業体験の内容は受入先によって異なり、1企業につき1~2名を派遣し業務に従事することや、グループ単位で派遣し、課題解決ワーク+プレゼンテーション実施など、バリエーションが豊富である。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
要素②	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	建学の精神“實地應用ノ素ヲ養フ”に基づき、正規の授業科目として設置。大学において学修した専門知識・語学スキルなどを、海外インターンシップを通して、応用、実践する能力を養成することを目的とした、アカデミックかつ、実践的なキャリア・グローバル教育の一環である。科目運営においては、教職協働による戦略的委員会を設置し、時代の流れに合わせたコースの配置などを検討している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	各コースそれぞれに経験豊富な実務家を講師として任用し、週に1回×15週の授業を担当する。実務家教員のもと、各受入先・国の基礎的な知識をはじめ、実践的な語学力の修得、将来組織において自分の力を発揮できるよう、ビジネスマナーを含めた社会人基礎力を身につける。専門科目の講義ではなかなか触れることのできない内容を、少人数のアクティブラーニング形式で実施する。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習同様、実務家教員が週に1回×15週の授業を担当する。語学スキルの修得と並行しながら、就業体験での経験をコース内にて共有し、海外で働くことの意義や目的について理解を深める。事後学習の一環として、プレゼンテーションを含めてすべて英語により進行する体験報告会を実施する。資料作成やプレゼンテーション技法など社会に出た際に不可欠である実践的なスキルも身につける。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中に、教職員が受入先に訪問し、学生との面談のみならず受入先担当者とのミーティングを実施している。また、就業体験前にインターンシップ研修録を学生に配布し、就業体験中の気づきや業務内容を毎日記入する。記入した研修録は、インターンシップ中や事後学習の際に、担当教員が確認・フィードバックを行う。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	卒業時に実施する、全学の卒業生を対象にしたアンケートにおいて、経済学部独自にインターンシップの教育的効果に関する項目を設定している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事後学習の一環として、すべて英語により進行する海外インターンシップ体験報告会を実施する。事前学習・事後学習において身につけた語学スキルを活かし、就業体験での報告を全コースの学生の前でプレゼンテーションする。自らの経験を振り返る機会になるとともに、様々なコースの報告を聞くことにより、他国の文化や職業観に触れることで、自身のキャリアデザインを明確にすることも目的としている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間14日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前・事後学習を含めず、企業等での14日間以上の就業体験を実施している。それぞれの受入先との準備の段階で、連続した14日間以上の日程確保を依頼している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	

	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	双方にとってより効果的な就業体験となるよう、就業体験前に受入先担当者と学生・教職員によるミーティングの機会を設けている。学生と受入先のミスマッチを減らすことや、実際の業務内容や国の文化・危機管理体制について事前に理解を深めることを目的としている。また、体験報告会の様子を動画撮影し、現地の関係者と共有することで、学生から受入先へのフィードバックや学生の成長確認の機会としている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	中央大学
	担当部署名	経済学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	東城 佑紀
	電話番号	042-674-3312
	メールアドレス	joto23@tamajs.chuo-u.ac.jp